

『虐待どっとネット AYA 世代アンケート』

第1回調査 報告書

はじめに

2020 年は、日本においても世界においても、混乱に溢れた 1 年になりました。新型コロナウイルスの流行、それに伴うオリンピック・パラリンピックの延期、政府発令の緊急事態宣言、「不要不急の外出自粛」…、私たちの日常生活も大きく変化しました。

そのような中、2020 年の全国虐待相談対応件数は過去最高値を記録し、自殺者数は 10 年ぶりに増加するなど、生活環境の変化は、確実に、私たちに何らかの影響を及ぼしています。今この瞬間にも、現状の生活に困難を感じ苦しんでいる方が、どこかにいることと思います。

虐待どっとネットは、「虐待を受けた子どもの AYA 世代の支援環境の構築」をテーマに活動しています。(AYA 世代とは、Adolescent and Young Adult (思春期および若年成人) の略で、15 歳から 39 歳ぐらいまでの世代のことを指します。) 主に、虐待を受けて育って大人になった当事者 (サバイバー) や虐待を受けた子どもたち、虐待を受けた子どもやサバイバーを支援している方に向けてのサイトを運営しています。

「虐待どっとネット AYA 世代アンケート」とは、当団体が実施している、主に被虐待の経験がある AYA 世代を対象にしたオンライン調査です。日常生活を送る上での困りごと、治療を受ける中での困りごとなどを明らかにし、現在日本ではどのような活動が行われているのか・そして今求められている活動は何かについて、検討することを目的としています。

第 1 回目となる本調査では、アンケート回答の年齢構成や、児童福祉施設への入所歴など、基本情報を中心に収集し、次回のアンケート内容への手がかりを得ることができました。本報告書では、調査の全体の結果をご報告します。オンライン、特に Twitter をメインに回答を募集したため、日本全体での傾向を反映しているとはいえませんが、非常に貴重なご意見・情報をたくさん得ることができたと考えています。この結果が、私たちの今後の活動の指標になることはもちろん、みなさまの生活・活動等々に役立つことを願っております。

2021 年 2 月 18 日
虐待どっとネット 一同

調査について

実施主体: 虐待どっとネット (<https://gyakutai.net/>)

実施期間: 2020年9月～10月

対象: 被虐待経験のある AYA 世代

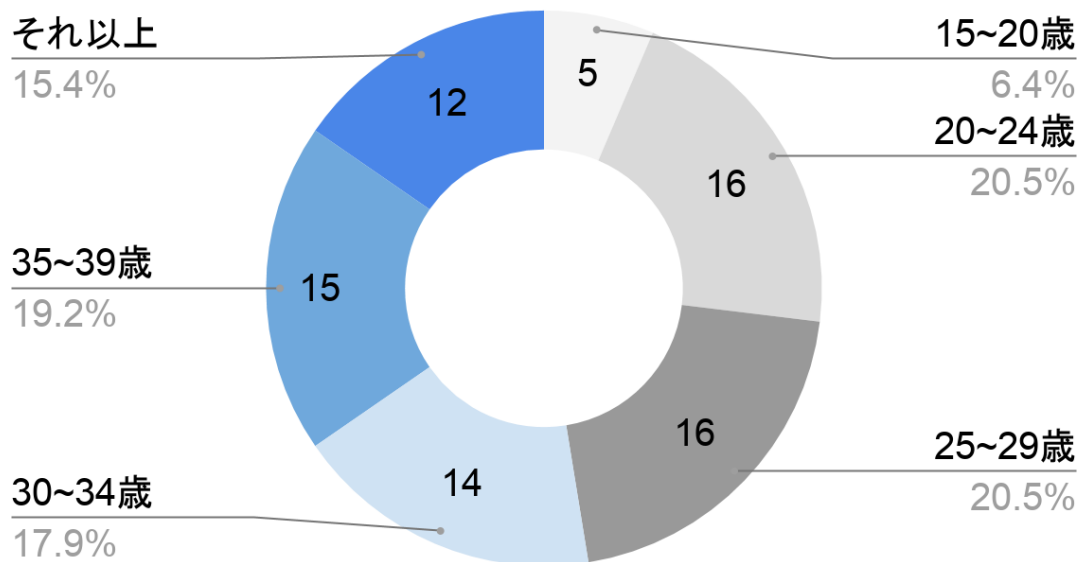
実施方法: Google form アンケート

調査結果

基本情報

得られた 78 人の回答のうち、20 歳代の人数が最も高く、ほぼ同数の 30 歳代の人数も得られたことから、AYA 世代を対象としたアンケートとしては信頼性の高い結果が得られたといえます。

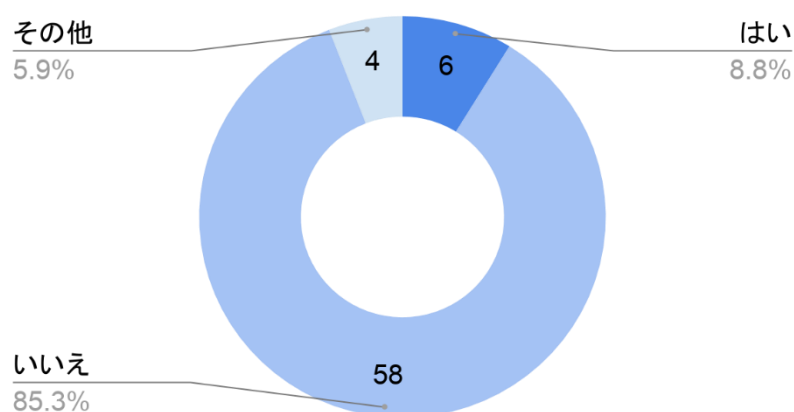
年齢構成



※なお、本調査の都合により、以降、40 歳以上の回答を分析に反映させていない箇所がいくつかございます。ご理解の程宜しくお願い致します。

AYA 世代全体での結果

①児童養護施設への入所歴



※本調査の都合上、児童養護施設ではないが児童福祉施設に入所した歴のある方をその他に、それ以外は全ていいえに分類しています。

②A. 児童養護施設を含む児童福祉施設に入所していた方対象 アフターケアを十分に受けられているか

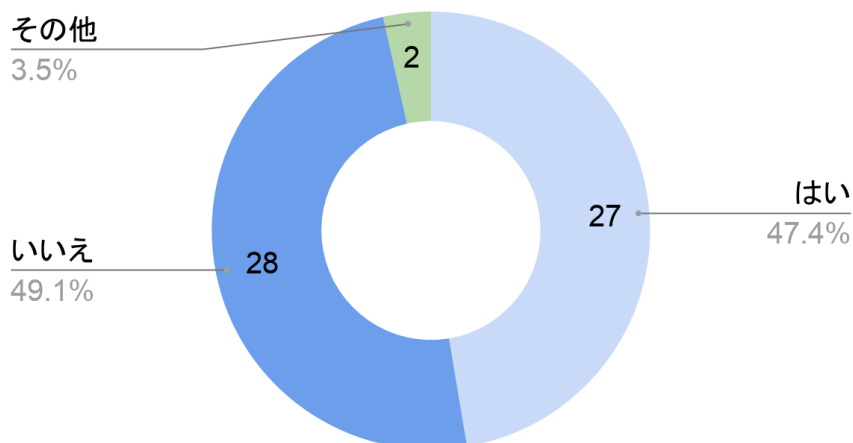
回答	人数
はい	2
いいえ	3
その他	3
無回答	2
合計	10

その他:

- ・年齢制限のある奨学金ばかり、精神障害として資源を活用してる感覚です。
- ・今は地域の心理士さんや当時の担当職員との繋がりもあるが、18~20 歳までは 1 番しんどかった。
- ・児童養護施設で生活していても退所してもケアはありませんでした。
- ・(実際行われているのは本当に少数。地方では全く行われていないのでは?)

「はい」の割合が最も低く、その他の回答を見ても、施設退所後のケアはあまり十分ではないことが予想できます。

②B. 児童福祉施設に入所していない方を対象
現在サポート機関につながっているか

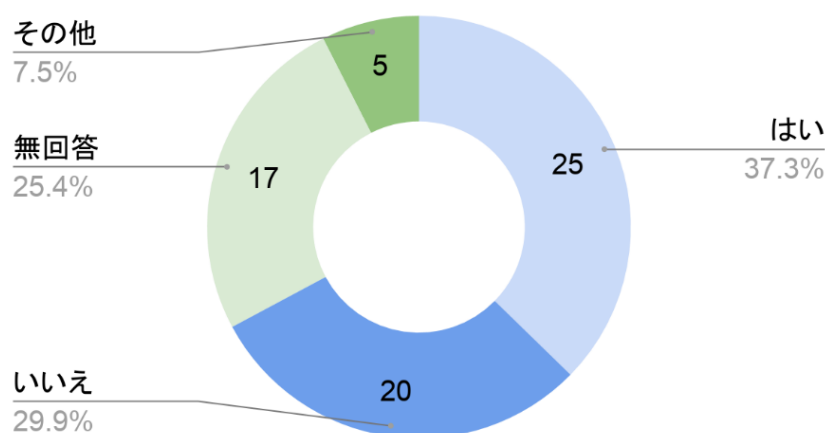


その他・具体回答:

- ・そだちの樹 (NPO 法人)
- ・性被害者ピアサポート
- ・暮らしサポートセンター
- ・行政とは繋がっていますが、サポートは充分ではなくサポート機関とは言いがたい
- ・回復まで支えてくれた心理士さんのセッションは予約をすれば受けられますが、今は生活に問題がなく長いこと利用していない。
- ・自助会に入っていました但本来被害者は対象外(依存症に陥った人や虐待加害に転じた等が対象なので)虐待のサポート機関は公的には存在しませんので、一応民間の自助会の一部が対象ですが依存症と同じ(加害者として扱われる)ような扱いの所が多いです。被害者が加害者から逃げたり法的措置の対応は全くのサポート外なので繋がれません。

ただし、サポート機関が提供するサポートを利用する必要のない人や、その他の形でのサポートが必要な人など、回答者の様々な背景を検討する必要があります。

③困ったときに相談できる人がいるか

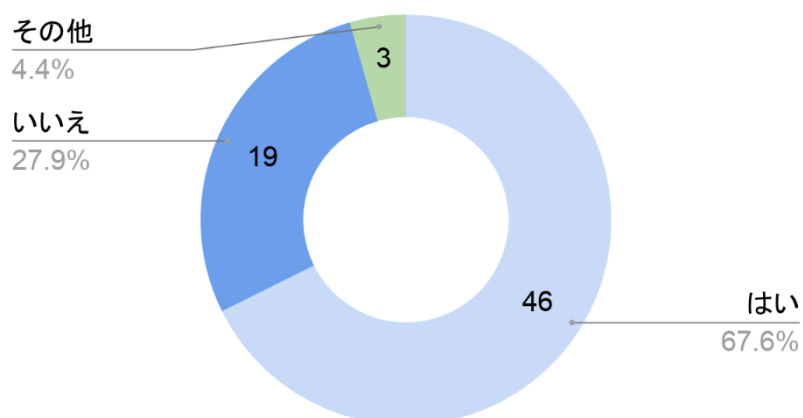


その他:

- ・病院のソーシャルワーカーさん病院外の支援員
- ・当時はいなかったが現在はいる
- ・ずっといなかった。再被害を受けてから、医者、心理士、デイケアの職員と繋がることができ、家族と友達には病気のことをわかってもらい、前より相談できるようになった。
- ・現在は自助会の方や精神科医がいる。
- ・今は旦那が該当する。本当に困った時相談できる人は過去も現在も居ないように思う。
- ・その困り事による。人に言えない事の方が多い。
- ・カウンセラーなどいるが、すべて話せるかは分からない
- ・以前はいた
- ・(殺されかけても虐待と認識できなかったので30年以上相談しても長らく2次被害にしかあつたことがない。)

無回答の人の中には、「困ったときに相談できる人がいない」という意味で無回答にしている人がいることが考えられます。「はい」と答えている人は 37.3%と、低い割合だといえます。

④精神科に通院しているか

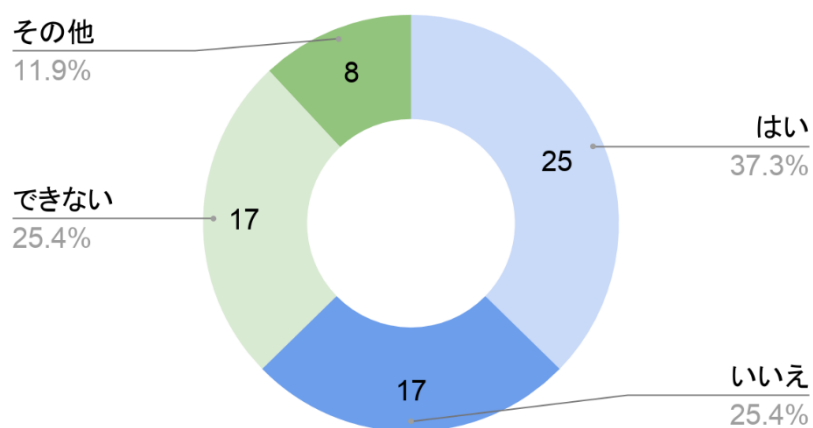


その他:

- ・普通っていた
- ・通わせてくれない

「はい」と答えている人が多く、被虐待と精神疾患の関連を示唆する数値であると考えられます。ただし、普通っていたが今は通っていない人が、いいえにしている可能性があります。

⑤トラウマ治療を受けたことがあるか、あるいは受けているか



※「できない」…高額のため治療を受けることができない

トラウマ治療など、心理的な治療・療法は、自由診療になる場合が多く、治療費の問題は大きいと考えることができます。ただし、トラウマ治療を行うべきではない人などが、「いいえ」の中に含まれている可能性があります。

その他:

- ・これから受けられるかも
- ・今後受ける予定および、もしくはセルフケアとして行う。
- ・心理カウンセリングは受けているが、トラウマ治療(EMDR など)ができる場所でない。
- ・施設内でトラウマケアがあったが、フラッシュバックが酷くなり役に立たなかった。
- ・県内に治療機関が無く、都内で二回治療をした。医療費・交通費が高額で通いきれない。
- ・前の主治医ではできないとの事で病院をうつった。前まで20年近く複数の病院から精神病と言われてましたが、当時虐待被害を軽んじていた為の誤診とわかり、大きな病院等で見てもらい誤診が分かりました。トラウマ治療しようにも根本的な治療すら今まで受けられていないのでかなり先になるそうです。
- ・匙を投げられた。他は遠方すぎて行けない。
- ・受けたくて心療内科を探していたけど、お医者さんに馬鹿にされた態度を取られて探す事を辞めた。本当はいつでも通いたい早く良くなりたい。
- ・合う医者に巡り会えていないので受けていない。受けたいと思っている。

10代・20代と30代の結果比較

回答	はい		いいえ		無回答		その他	
	10~29	30~39	10~29	30~39	10~29	30~39	10~29	30~39
施設入所	2	4	33	25	0	0	3	1
アフターケア	1	1	1	1	0	0	0	2
サポート機関	15	10	16	12	0	0	0	2
相談できる人	13	12	13	7	12	5	0	5
精神科通院	29	17	9	10	0	1	0	0
トラウマ治療	12	13	8	9	12	5	6	2

10~29歳の回答者は38人

30~39歳の回答者は29人

治療中の理想の働き方 (自由記述)

回答の一部にはなりますが、お答えいただいた意見の一部をご紹介します。ただし、治療をしていない人なども回答している可能性があり、今後の更なる検討が必要だといえます。

勤務時間に関して

自由な時間にはじめられる
しんどくなったら帰ってもいい。
自由な時間に帰宅していい
完全自由シフト
時間は自由
1日4時間
1日6時間以下
半日勤務
7時間
時短勤務・短時間(2人)
定時の徹底
午後から

勤務日程に関して

週1回・週3回勤務
週4日勤務
週に何回か働く日を選べる
出勤できなかった日を別日に振り替え可能にする(水曜日欠勤→土曜日に出勤等)
体調の良い日だけ前日から仕事を単発で行ったり、日程を選び無理のない範囲で働く

類似回答:

体調に合わせて働く
自分のペースで仕事ができる
それぞれのペースで働ける
働けるときだけ行けばいい
休める時に休んでいい
好きなタイミングで堂々と休める
休みたいときに罪悪感無しに休める
当日欠勤も連絡不要
余裕がある時にだけ働ける

勤務形態に関して:

出来高制の仕事

リモートワーク6人

派遣サイトでの単発

自分で仕事を作りたい

自由裁量制

リハビリテーションとしての就労。はじめは体調と気分優先で休める仕事。

環境・配慮・福利厚生に関して:

安心して相談できる

障害や病気にとっても理解のある職場

精神科や法的な措置について偏見のない職場

職場にサポートしてくれる理解者がいる

体調が悪い人や家庭の事情がある人がスムーズに休める環境

体調の良し悪しを理解してくれる

休みたいときは静かな部屋で休みたい

フラッシュバックが起きたら、休憩がとれる

子どもを預けられるサポートを常に用意しておきたい

治療日は治療優先にして、その後二日は有給休暇が欲しい

通院のときは有給を取れる

同じように病気を持つ人が一定数いる

虐待加害者と同じ属性の人と働くのを避けられるといい

社会保険ギリギリ加入出来る時間内で一人暮らし出来る金額が欲しい

十分に暮らしていけるお金がもらえる

理由・その他:

解離が強く記憶が途切れやすく、一日の半分くらい自分がさっきしまった物の探し物をしたり言われたことを聞き返すことに使っているから。

心が不安定になりがちで仕事がキツくなる事もあるから

体力的、精神的な負担を軽減したい

仕事がストレスにならないといいなどは思います

休んでもせめられない、疲れたら休める、ゆるゆると人間関係のなかの安心感を得るための就労 PTSD の治療は人によっては体力を激しく消耗するのでそう考えました

仕事は普通で大丈夫だけど、苦しいときに24時間プロ対応できるところがほしい

困ったときにあったらいいなと思うこと (自由記述)

非常にたくさんの回答を頂きました。今後これらの声のうち、より多くの方が求めている人、場所、及びサービス等を検討する必要があるといえます。ただ、もちろん、これら全てのご意見それぞれがみなさんが必要としていることであり、全て実現できるような活動を展開したいと思います。

インターネットサービス

カウンセラーのマッチングサービス

家出したときに繋がれるところの情報が見られる場所

保護されたらどうなるか分かるチャートのようなもの(保護されたらどうなるか分からなくて兎相に言えなかった)

サバイバーならではの困り事の解決策や成功事例

知恵袋的な質問→回答みたいなこと

セルフケアに関するスキルをまとめたサイト

SNS・文章

SNS。具体的なサポート内容を、誰でも知れるとより安心して連絡しやすい。

メールと電話だけでなく LINE を送れるようにするとか、個人間のやりとりが出来ると安心出来る
気楽に LINE のような感じで話したい

文章で気軽に相談できること

利害なくフラットに話ができる所。テキストで

傾聴

いつでも連絡ができるような関係性の人たち

24 時間対応のトラウマに理解のある傾聴先

自分が求めるまでアドバイスをしない人

話を聞いてくれる大人

良いことも悪いことも気持ちを吐き出せる場所

夜中でも話を聞いてくれる人。駆けつけてくれる人。

会話・相談

何でも相談できる場

気軽に連絡できて意見などを交換出来る場

人生の歴史や現状の凄惨さを隠さなくても普通に話せる場所、相手

カウンセリング

ズームでカウンセリング

定期のカウンセラ一面談

社会的相談制度

福祉の充実

子どもが親や親族以外の相談できる存在が社会的にあること

安定して相談を受ける人が変わらない場所、相談員の移動なし

携帯電話やネットが使えない場合でも、直接相談出来る場所

184のような、大人の電話相談、保護される場所

病気で動けないときに身の回りのことを相談できる場所

公的機関の無料または定額の支援や相談窓口（職員は人権意識があり親身な対応をしてくれる）

公的手続や就職に際する相談先

働くこと・生活することについてしっかり相談できる場所

社会的支援制度

妊娠や出産に対する被虐待児向けのサポート

定期的に「どうですか？」と声をかけに来てくれる人

退所後 18~20 歳までの間、基本的な社会生活やルールなどの指導

家を借りるのも就職するのも保証人のことで悩むので助けてほしい

買い物代行、あったかいてづくりのお袋の味のお弁当配達、そこですこした、つながりがほしい

医療等専門機関との連携

カウンセリング等の専門機関へ繋げてくれる存在

弁護士や虐待専門の精神科への紹介制度

トラウマケアと当事者団体を首都圏以外でも欲しい

病院以外に長期的にお付き合い出来るカウンセラーや精神保健福祉士の方々。出来れば無料もしくは低料金

居場所

保護者または世帯主等の許可がいない滞在場所

放っておいてもらえる(考えることができたり落ち着いたり)かつ安全が確保されていて安心できる場所

一人で生活出来る場所、安全な場所

家と学校以外の居場所

図書館など公共施設が閉まった後に逃げ込める場所。

自分の気持ちを吐き出しても否定されない安心できる空間
ただ自分の存在を肯定してくれる人や居場所
一夜安心安全に過ごせる場所
住居とライフラインが保てるような制度や環境
ただ隣で、ゆっくりと、淡々と話を聞いてほしい。
ひとりっきりになれる場所
信頼できる人が一緒にいること
ふらっといつでもよれる夜中もすべての 24 時間の居場所

その他

子ども自身に逃げる方法を教える
フラバや過覚醒の時に、頓服薬以外に緊急でリラックスできるサービス
金銭補助・現金支給

その他に頂いた声

- ・虐待にあつて自宅から逃げられなかった子ども時代には、何とか帰らないでいい場所が欲しかった…。
- ・成人してから親からあざができるまで殴られていましたが、成人を理由に色んなところから断られた。
- ・主治医や作業所との関わりを断ち切りたい
- ・孫娘に執着する母から娘を守るのが大変。
- ・自分の芯がある大人に話を聞いてもらうと、色んな考えが自分に入ってきて生きる道の選択肢が広がる
- ・殺されそうになったり性加害の PTSD 症状が出ても大した事件じゃないからと門前払いされる。親と法的に縁が切れないし逃げても住民票の閲覧制限すら相談場所が無い。性被害等の深刻さに気づいても訴えられないし身を守ることも出来ない。
- ・『他人に助けを求める』のが凄く大きな壁だと感じる子どもが多いと思う
- ・人生の思い出やエピソードがほとんど虐待や重い話と結び付いてるから、普通の社会では捏造した話しかできない。本来の自分を偽って話すのがとてもつらい。
- ・虐待から離れても、未成年のうちに将来のことまで考えて行動するのは難しい人もいると思う(自分の傷と向き合うのに必死というか、情緒がコントロールできずというか。育った環境によっては社会経験や一般常識を知らないままであったり)。

※備考

本調査では、精神科での診断名、治療中の二次被害について、入院せずとも環境を変えたいと思う日、同じ虐待サバイバー同士が働く作業所についても質問項目を作成致しました。これについても、多くの貴重なご意見が得られましたが、アンケートの質問構成上、今回のご報告では結果の公開は見送ることといたしました。第2回目の調査を実施した際に、より明確かつ詳細なデータをご報告させていただきます。

おわりに

今回の調査で、被虐待の当事者（サバイバー）の方々が、現在どのような状況で、どのような困難を抱えていらっしゃるかの一部を知ることができました。

社会的養護で暮らす子どもたちは年間4.5万人といわれています。社会的養護出身の方々の支援環境が整ってくる中で、18歳までに適切な支援を受けられなかったことによる精神疾患の罹患率の高さや支援の不足が明確になりました。

今回の結果をもとに、私たちは虐待を受けた子どものAYA世代の支援環境の構築に全力を尽くしてまいります。

今後とも、どうぞ応援の程、宜しくお願い申し上げます。

【本報告書についての問い合わせ先】

虐待どっとネット

代表 中村舞斗

info@gyakutai.net

2021年2月18日
虐待どっとネット 一同